

目的：家族の心理的關係に焦点を当て、子どもの共感性、個別性、セルフ・エスティームに、どのような影響を与えているのかを明らかにする。

方法：小5・中2・高2を対象として、間接配布・間接回収による質問紙調査を行った。家族との心理的關係として、家族の精神安定化機能、家族からの受容、家族からの暴力の3項目を挙げ、共感性、個別性、セルフ・エスティームとの関連を、 χ^2 検定によって考察する。

結果：共感性に対しては、家族といるとほっとする（家族の精神安定化機能）、ありのままの自分を認めてくれる・愛されている（家族からの受容）が、プラスの影響を及ぼしている。

個別性に対しては、家族といるとほっとする（家族の精神安定化機能）、ありのままの受容（家族からの受容）が、プラスの影響を及ぼしている。

セルフ・エスティームに対しては、家族といるとほっとする（家族の精神安定化機能）、ありのままの自分を認めてくれる・愛されている（家族からの受容）が、プラスの影響を及ぼし、心が傷つくような事をされたり言われた（家族からの暴力）が、マイナスの影響を及ぼしている。